



季節を知ったら
暮らしが楽しくなった

（第三一九号）

春分 しゅんぶん

三月二十日

涅槃図 ねはんず

先日、伊勢市勢田町の中山寺ちゅうざんじを訪ねました。江戸時代初めに亀山藩主の祈願により、山田奉行の援助を得て、創建されたお寺です。以前、「暮らしのぞき箱」で四体目の円空仏が発見されたことを記しましたが、江戸時代、円空も立ち寄ったと考えられるお寺です。

御本堂に上がらせていただくと、大きな涅槃図が掛けられていました。江戸時代のもですが、保存もよく、色鮮やかに描かれています。涅槃図は、沙羅双樹さらそうじゆのもとに横たわった釈迦しやくかのまわりを、弟子や動物が取り囲んだ図で、その際にかけてつけた生きとしいけるものは五十二種と伝わります。大きな白像も、小さな虫もどれも仏教の開祖の死を嘆き、口を開けて泣いています。伊勢の地に、こんな立派な涅槃図を拝見できるとは、驚きました。江戸時代初め、俳人の松尾芭蕉がこんな句を伊勢で詠んでいます。

神垣やおもひもかけず涅槃像

松尾芭蕉

貞享四年（一六八七）、芭蕉四十四歳のとき、伊勢滞在中に思いもかけず涅槃の仏像を見たのです。当時は神仏習合しんぶつじゅうごうの時代、旧暦の二月十五日の涅槃会で外宮の館にも涅槃像が安置されていたというもの。神さまの近くでもお釈迦さまの像があったのです。

鎌倉時代の歌人、西行の著名な歌があります。

ねがはくは花のしたにて春死なん そのきさらぎの望月の頃 もちづき

如月の望月とは、まさしく釈迦が入滅した二月十五日のこと。この歌には桜が咲く季節の満月の頃という以上に、釈迦にあやかっこの世を去りたいという僧侶としての思いが込められています。

三月十五日の涅槃会、そして二十日は、お彼岸ひがんと仏教の行事が続きます。

文 千種清美



おかげの里便り

おかげ横丁

○ 五十鈴川の桜

新緑の朝熊山を背景に、対岸の桜をお楽しみください。
日没からは夜桜のライトアップでしっとりとお花見していただけます。
五十鈴川の桜と一緒に、うらかな春のひとときをお過ごし下さい。

と き / 4月上旬
ところ / 五十鈴川河畔

● 夜桜のライトアップ

日没より、五十鈴川新橋周辺の夜桜をライトアップします。
風のない日は、五十鈴川の水面に映る美しい桜もお楽しみいただけます。

と き / 満開の頃 19:00～21:00
※雨天時は中止させていただく場合もあります。予めお問い合わせの上、お越しください。

五十鈴茶屋

○ 節気菓子

はる かわ 春の川
五十鈴川の流れがほんのり桜色に染まり、美しい風情を醸し出しています。色付けした葛寒天で桜餡を包み、春爛漫の気分を満たした川端の景色を表しました。

の 野あそび
はるか昔から、人々が楽しみ、愛し続けてきた春の野遊び。古人の心を想い、よもぎの草餅をこしらえました。懐かしい摘み草の思い出が帰ってきます。

おう か 桜香
咲く様も散る様も美しく、古来より愛されてきた桜の花。こし餡を包んだ薯蕷ねりきりで桜の花をかたちどりしました。やわらかに香る春をお楽しみください。

五十鈴塾

○ 暮らしに役立つ身近な薬草

一昔前まで、祖父母から孫へ、親から子へと、身近な暮らしの中で薬草を摘んで活用したくすりの知識がありました。しかし、現代のくすりの概念は大きく変わり、くすりは精製され、カラーコーティングされ、知識のある専門家に聞かなければわからないものになっています。本講座では、くすりの原点をさぐり、色・味・形のある薬草を使って、皆さんに五感で感じてもらいます。加藤さんの生家は四日市で室町時代中期から続いた製薬メーカー、萬金丹などの漢方薬を作っていました。現在は伊勢で国産の薬草を使っての伝統薬の開発に力を注いでいらっしゃいます。胃腸薬の萬金丹、便秘薬のおはらい丸などのほか、三重県産の芍薬や甘草をつかった浴用剤などもあります。加藤さんのこだわりは三重の農家が栽培した薬草で国産の生薬を作ること。今回も皆さんに健康を保つ薬事法にふれない薬作りを体験していただきます。自分で作ったマイくすりってちょっと素敵ではないですか？

と き / 3月24日(火) 13:30～15:00
講 師 / 加藤 宏明 (伊勢くすり本舗株式会社代表取締役)
参加費 / 一般1,550円 会員1,050円 (薬草代)
場 所 / 五十鈴塾右王舎
※お問い合わせ・お申込み 0596-20-8251